編集者の独り言

2022年から本誌の編集委員に加えていただき，今年で5年目になりました。この間，本欄も編集後記から「編集者の独り言」に変わり，日頃感じていることを執筆するという内容になりました。ここでの執筆も今回が3回目です。とはいえ，2万人以上いる日本化学会の会員に向けた「独り言」か……と思うと，何を書いたらよいものかと考え込んでしまい，そのまま締め切り間際になって焦るということを繰り返しています。進歩がないなと感じるのですが，以前にも本欄で同じようなことが書かれていたことを思い起こし，「2万人以上という数字がちらつくと，こうなるのは自分だけではないのだ」という，とりあえずの安心（のようなもの）を得ることにしています。

今年度は編集委員に加えて，東海支部の代表正会員としても日本化学会に携わる機会を得ています。編集委員と代表正会員の二足の草鞋という状況も，あまり多くはないと思いますので，今回は代表正会員の役割の中で見聞きしてきたことを記してみます。ちなみに，代表正会員について，そもそも耳にしたことがない方もいらっしゃるのではないでしょうか。自分のことを棚に上げるようですが，私は現職である静岡大学に着任して，初めてその存在を知りました。

代表正会員の主な役割は，各支部での活動に関する広報や，日本化学会への入会勧誘などです。年に一度ですが，各支部の活動状況を報告する会議と懇談会があります。代表正会員は大学だけでなく企業からも選出されるため，この会議と懇談会は，普段接点のない方と話をし，ネットワークを作る良い機会にもなっています。また例年，この会議には会長と常務理事も出席されます。

今年度は，半導体関連材料を取り巻く状況について，なぜ日本企業が勝ち続けてきたのか，そしてこれからも勝ち続けるためには何が必要か，という視点から，森川宏平会長による講話がありました。「勝ち続ける」という言葉に込められた気迫のようなものが，今も強く印象に残っています。一方，懇談会では森川会長が席を移りながら，出席者との交流を楽しんでおられる姿も印象的でした。講話での「勝ち続ける」という力のこもった言葉と，懇談会で交流を楽しむ会長の姿は，一見すると対照的にも見えたのですが，あとから考えてみると，この2つは案外つながっているのかもしれません。勝ち続けるためには，強い意志を持つことだけでなく，いろいろな立場の人と話をし，それぞれの考えを知ることも必要なのだろう，と。懇談会での会長の姿も，その講話の続きだったのかもしれないと，少し勝手な解釈をしています。

代表正会員としてこの会議に参加したことで，私自身，編集委員とは少し違う席から日本化学会を見ることになりました。2万人以上という数字を目の前にするとやはり身構えてしまいます。ただ，考えてみれば，2万人以上の会員も，一人一人の集まりです。今回，その当たり前のことが少し実感を伴って見えてきました。そうであれば，2万人を意識して何か立派なことを書かなければ，と身構える必要はないのかもしれません。私自身，本欄に以前に書かれた「独り言」を思い出して少し安心したように，今回の独り言も，2万人の中の誰かにとって，少し考えたり，ほかの誰かと話したりするきっかけになれば，十分なのではないかと思えてきました。今回も締め切り間際まで考え込んでしまいましたが，ここまで考えが進んだことを，5年目なりの進歩（のようなもの）としておくことにします。

（守谷　誠）

カラー写真ご提供のお願い

化工誌編集委員会

本誌の目次や編集者の独り言下に掲載するカラー写真を広く会員の皆様からのご投稿をお願いしています。ご投稿いただいた写真は編集委員会で適宜選択して使わせていただければと考えています。ご投稿の際にはごく簡単な説明をつけていただき，電子ファイルの場合には高解像度のもの（300DPI以上）をお送り下さい。

以下のような写真のご提供をお待ちしています。

1. 季節感のあふれた風景・草花・野鳥・動物の写真など
2. 化学に関する写真―カラフルな物質，化学模型，電顕写真，実験機器，化学プラントなど

送付・問合先：101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5
日本化学会　学術情報部　「化学と工業」誌担当
FAX(03)3292-6319　E-mail: kakoshi@chemistry.or.jp



キク（江戸菊）　務台　潔